

## 「石垣島の台湾人」

琉球大学法文学部社会学専攻 野入直美

[knoiri@ll.u-ryukyu.ac.jp](mailto:knoiri@ll.u-ryukyu.ac.jp)

### 1. はじめに

- ・石垣島の台湾人、台湾の沖縄県民
- ・日本植民地時代の「双方向的移動」が、現在の石垣島における台湾人と地元の人々の関係に影響を及ぼし続けているのでは？

### 2. 沖縄から台湾への人の移動（日本植民地時代）

(1) 八重山から台湾へー『蟻の詩』における「第二の東京」という表現

(2) 台湾移住の概略

- ・1920年代から本格化、1940年代には約1万5千人の沖縄出身者が台湾に居住（全国4位）
- ・単身出稼ぎ／定住、結婚、出生
- ・職業：公務・自由業、商業、交通業、水産業、家事使用人など
- ・引揚者給付金の支給を受けた人々のうち、台湾引揚者は宮古・八重山出身が多い

(3) 台湾引揚者のインタビュー調査

- ・21名（うち14名は台湾生まれ）
- ・植民地への移住ー豊かな教育・就労の機会／都会生活の体験／出稼ぎ
- ・台湾人との関係：＜共生＞、植民地的支配、「琉球人」差別

### 3. 台湾から石垣島への人の移動

(1) 戦前：植民地支配を背景とする台湾人実業家の入植

- ・パイン産業の芽生えー1935年 大同拓殖の設立
- ・当時の石垣島ー人口2万人、農業中心
- ・すでに台湾には1万人ほどの沖縄出身者が居住。しかしそのことは、石垣島における関係の好転にはつながらない。
- ・台湾人排斥
- ・戦略としての同化と台湾人共同体

(2) 戦後：台湾人の再移住とパイン産業の興隆

- ・1952年～パイン会社の再建

- ・大城満栄氏—台湾人実業家とともにパイン産業を担ったハワイ引揚者
- ・石垣島の基幹産業へ—1965年のパイン缶詰の売上高：1750万ドル、輸出額：八重山郡からの対日輸出額の62.5%。
- ・台湾からの「技術導入」：1962年、37人から実験的に開始。1969年までに1536人が技術導入として石垣島へ移動。
- ・地域の人々がパインブームの恩恵を共有→表立った台湾人排斥、葛藤なし。一方で、台湾人と地元の子どもの「石投げ」の思い出を語る人などがある。
- ・語り—厳しい標準語教育の経験、「日本人より日本人らしく」になりたい台湾人少年

### (3) 移行と定住：沖縄の本土復帰、沖縄本島への移動、帰化

- ・60年代末にはパイン産業は斜陽化
  - 台湾人労働者の多くは、帰国するか沖縄本島へ移動。
- ・台湾人実業家は貿易自由化反対を訴えつつ、沖縄本島で多角経営。
- ・1972年：本土復帰／中華民国との国交断絶
- ・台湾人の大量帰化—1973年。「貢献」の物語として語られる帰化。
- ・脱パイン時代の模索—「台湾人部落」からの人口流出、石垣市街地へ分散
  - 世代の移行→1981年 琉球華僑総会青年会（のちの青年部）発足
  - 中国語講座、石垣島祭りへの蛇踊りの参加など、新たな地域との関わり。
- ・台湾人どうしの結婚より、地元の人との結婚が一般化
- ・琉球大学で出会ったひとりの「台湾系」学生—「台湾系にこだわりはない」
- ・台湾からの「ニューカマー」

### (4) 現代の石垣島と台湾人

- ・有村産業の経営破たん、台湾航路存続の危機をめぐって
- ・クルーズ船による台湾人観光客の増加

### 参考文献

小熊英二『＜日本人の境界—沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで—』新曜社、1998年。

台湾総督官房臨時国勢調査部『国勢調査報』復刻版『外地国勢調査報告第五輯：台湾総督府国勢調査報告』文生書院、2000年。

嵩田公民館記念誌編集委員会編『嵩田 50年のあゆみ』1996年。

嵩本正宜『蟻の詩—嵩本正宜自伝』ミル出版、1995年。

富山一郎『近代日本社会と「沖縄人」—「日本人」になるということ』日本経済評論社、1990年。

野入直美「生活史から見る沖縄・台湾間の双方向的移動」（蘭信三編著『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版、2008年）。

- 林発『沖縄パイン産業史』沖縄パイン産業史会、1984年。
- 星名宏修「『植民地は天国だった』のかー沖縄人の台湾体験」西成彦・原毅彦編『複数の沖縄ーディアスポラから希望へ』人文書院、2003年。
- 牧野清『新八重山歴史』牧野清発行、1972年。
- 又吉盛清『日本植民地下の台湾と沖縄』沖縄あき書房、1990年。
- 松田ヒロ子「沖縄県八重山地方から植民地下台湾への人の移動」蘭信三編著『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版、2008年。
- 松田良孝『八重山の台湾人』南山社、2004年。
- 三木健『沖縄・西表探鉱史』日本経済評論社、1996年。
- 三木清『八重山近代民衆史』三一書房、1980年。